

## 第2回パークレンジャー養成講座

「みんなで森を育てよう！」 講師：伊藤 孝美



第2回パークレンジャー養成講座を行いました。この日の参加者は8名でした。午前中にパークセンターで講義を受けた後、午後は竹の間伐体験に取り組みました。

**1. ニックネームリレー**

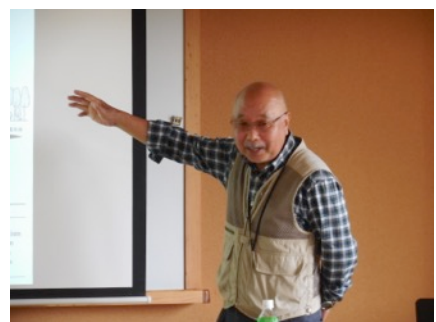
午前中は、泉佐野丘陵緑地のパークセンターで講義でした。はじめに、互いの名前を覚える簡単なゲームを行いました。危険を伴う活動等では、大きな声で互いの名前を呼び合う機会が数多くあるためです。全員が立って輪になり、「前の人のニックネーム・自分のニックネーム・次の人のニックネーム」をリレーのように言い渡していきます。何度かチャレンジし、全員が全員のニックネームを言い当てることができました。

**2. 前回の振り返り**

次に、前回の講義を振り返りました。前回の増田先生の公園の理念に関する講義内容について、studio-Lより説明させていただきました。

**3. 講義:里山の機能とその現状**

森林生態系を専門とされている、樹木医・森林保護専門技術員の伊藤先生に「森林生態系」、「環境形成の作用」、「里山の利用」、「里山の管理」、「竹林の管理」、「竹の見分け方」等についてお話をいただきました。



#### 4. 竹の間伐体験の準備

午後は、パークセンターからヤマザクラの広場へ移動し、現場で実習をしました。ヤマザクラの広場へ向かう途中でも、園内の植生や竹林の間伐が進められてきた経緯など、実際の竹林を見ながら、伊藤先生より解説していただきました。現地に着いた後は、山で活動する上での安全管理について説明していただきました。



#### 5. 竹の間伐体験

作業を行う前に、伊藤先生から竹きりノコの使い方や竹で手を傷つけやすいことについて教わりました。実際に竹を一本、実演として伐採していただきました。その後、3グループに分かれて間伐作業に取り組みました。今朝改めて覚えたニックネームでお互いを呼び合いながら、各グループ約8本ずつ伐採することができました。作業終了後に伊藤先生より、「誰も怪我をすることなく無事に作業を終えたことが一番の成果です。例年は5本程度が限界でしたが、今年は皆さん活発で、8本も切ることができました。しかしながら、終盤は疲れから作業が少し雑になっていました。雑になると怪我の可能性が高まります。気をつけましょう。」というアドバイスをいただきました。



#### 6. 終わりに

最後はパークセンターに移動し、感想シートの記入をしていただきました。

##### 《主な感想》

- ・今までなんとなく知っていたつもりの里山について、組織的・論理的に教えてもらい楽しかった。竹の種類、竹の切り方など改めて知ることができ勉強になった。



- ・森林の生態系、また里山の機能等を大変興味深く拝聴させていただき勉強になりました。また、竹切りの実践面でも、基本となる作業は体験できました。



- ・里山の生態系について興味深く拝聴させていただきました。また、土壌の質がそこでの気の木々・植物の育成で決まることも理解できました。

- ・竹の枝打ちを習得しました。ありがとうございます。

- ・竹切りの実習を受け、竹の枝切り方法が楽に行えるようになった。参考になった。



## 第 3 回パークレンジャー養成講座 「みんなで森を調べよう！」

講師：前中 久行



第3回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は8名の受講生が集まり、講義を受けました。

### 1. 前回の振り返り

はじめに、前回の講座を振り返りました。里山保全という観点から竹林管理と育成について講義を受けたあと、実際に山桜の巨木周辺へ移動して、竹の切り方を実習で学びました。

### 2. ボランティアについて

次に、事務局からボランティアについての講義がありました。自分たちで計画を立てて主体的に活動するというパークレンジャーのボランティア活動の特徴について、解説されました。

### 3. 講義:植生調査の仕方について

元大阪府立大学の前中先生に、植生調査についてお話していただきました。「植物によって構成される空間が目的であり、隙間が意味をもつ」という緑地の本質、「里山は人間の利活用の結果できているもので、時代や地域により異なる」という前提を共有されたあと、植生調査の目的と方法を具体的に解説されました。



#### 4. レンジャー広場での実習 1

午後からは、コラボレーション区域に移動し、植生調査の実習が始まりました。まずはレンジャー広場に生えているハンノキを使って、樹木の直径を計測するところからです。前中先生は、一つ一つの計測データの重要性を解説し、データを曖昧なものにしないため、「計り直しをしない」という点を強調しました。受講生は、注意点に留意しながらデータの計測を行いました。



#### 5. レンジャー広場での実習 2

次の実習は、樹高の計測から始まりました。目視で計測したあとに樹高計を用いて測定する方法を学びました。また、樹高計がない場合に、A4の紙を45度に折り曲げて、大まかな樹高を計測するという方法も披露していただきました。調査区域を特定するために、メジャーを使って10m四方の区域をつくる方法も受講生全員で実践しました。



#### 6. パークセンター前での実習

次に、パークセンター前の茂みで実際に植生調査を行いました。10m四方ほどの区域の中で、階層構造の高さを分けた上で、それぞれの階層に出現する植物名を記録していき、総合優先度と群度を判定します。焦って調査をするのではなく、1日に3箇所程度に絞って重点的に調査を行うことが大事、というアドバイスをいただきました。パークレンジャーの活動でも植物を調査する活動があり、積極的に参加することで、園内の植生に関してどんどん知識を増やすことができそうです。



#### 7. ホームルーム

最後にパークセンターでホームルームを行いました。前中先生から、「焦って知識をつけるのではなく、じっくり学ぶ姿勢が一番大事」と今後の活動に向けた助言をいただきました。

##### 《主な感想》

- ・フィールドワークでは、一本の幹から枝分かれた幹の合計断面積は、下の面積と同じであることを知り得たことは感激でした。また、色々な方法で木の高さが測定できることを学びありがたかったです。
- ・里地里山の景観は公園を作る場合、多少は人為的な植生が必要なことが分かり、樹木の高さ・太さ等の測定方法はためになりました。
- ・樹木の高さ、重さなど測定方法大変勉強になりました。植生調査の方法を知ると、散歩していても楽しさが増す気がします。



## 第4回パークレンジャー養成講座 「地域の景観・歴史・文化を学ぼう！」

講師：嘉名 光市（講義）  
東原 直明（史跡見学）



### 1. 自己紹介と前回の振り返り

第4回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は11名の受講生が集まり、講義を受けました。

まずは、今回初参加の方もおられ、簡単な自己紹介から始めました。講座の回数を重ねるごとに、お互いを名前呼び合う機会が増えているように感じます。



### 2. 講義:景観づくりを学ぼう

大阪市立大学の嘉名先生より、まず「景観」という言葉の本質について解説されました。景観は、「単なる眺め」や「お化粧」ではなく見ている人の評価が入ること、見ているものは同じでも、そこから得ているものや捉え方が違うこと、そのため、10人いれば10通りの景観があることなどをわかりやすく教えていただきました。

その上で、地域を象徴する特徴ある景観を遊路や広場でつなぎ編集すること、景観の魅力をあますことなくデザインすることについて、函館の事例などを用いてわかりやすく解説していただきました。



### 3. 講義:都市公園法を知ろう

パークレンジャーとして活動するにあたり、都市公園法の考え方を念頭に置いておく必要があります。今回は事務局より、クイズ形式による都市公園法の講義を行いました。特に泉佐野丘陵緑地において考えられる事例(棚田跡の勝手な活用の禁止、竹林のみだりな伐採の禁止など)を出題。パーククラブの活動が都市公園法に基づいて実施されていることを理解していただけたと思います。



### 4. 泉佐野市内 史跡見学①(意賀美神社)

泉佐野市教育委員会の東原先生の案内による史跡見学に出発。バスに乗り、泉佐野丘陵緑地のすぐ近く、意賀美神社を訪問しました。本殿は春日造りで、同種の建造物では大阪府で最も古く、国の重要文化財にも指定されています。今回は、残念ながら本殿を見ることはできませんでした。



### 5. 泉佐野市内 史跡見学②(日根神社)

次に和泉五社に数えられ、府指定の有形文化財である日根神社を見学しました。本殿の成り立ちや、伝統的な屋根葺手法である「檜皮葺(ひわだぶき)」、水に密着した神社として日根野地域の開発に貢献したことなど、幅広い観点から解説していただきました。日根神社のご神木である桜についても解説していただきました。



### 6. 泉佐野市内 史跡見学③(旧向井家住宅)

最後に、江戸時代の農家であり、泉佐野市指定文化財である旧向井住宅を訪問しました。ダイドコが土間側へ半間分突き出る「食い違い四間取り」という特徴や、希少な茅葺き屋根は地元の「茅葺き保存会」で管理されていることなどを教えていただきました。また屋内では周辺で採れる新鮮な野菜が販売されており、地域の方々が集まり活用する場所である様子も伺えました。



#### 《主な感想》

- ・景観は見る人により感じ方が異なること、そして人によって作られることの重要性を理解できました。
- ・景観について、見る人の意識が大きく影響することが大変勉強になりました。公園の景観をどう見て欲しいか、どんな時間を過ごして欲しいのか、作る側の意図も重要だと感じました。
- ・函館の街で、電柱を地中に埋めることで景観を良くする方法が取られている、という話が面白かった。
- ・午後の史跡見学で、泉佐野市の場所、地域による発展の異なりがよく理解できた。
- ・泉佐野市の住人ですが、今まで何気なく見ていた場所も、その背景がよく分かるようになった。
- ・現地見学では、実際に目で見ることができ、史跡についての解説もしていただけたので、理解しやすかった。

## 第5回パークレンジャー養成講座

「今後の活動を考えよう！」 講師：下村 泰彦



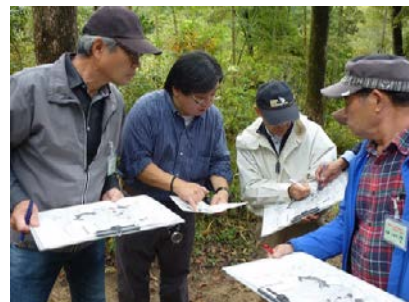
第5回パークレンジャー養成講座を行いました。この日は天気も良く、11名の受講生が楽しく講義を受けました。

### 1. フィールドワークのレクチャー

前回の景観づくりに関する講義の振り返りを行った後、大阪府立大学の下村先生による講義が始まりました。この日は公園の計画づくりを学びます。泉佐野丘陵緑地がどのような協議を経て整備されてきたかについて説明された後、フィールドワークに向けて、重要な視点として「土地利用（地形や植生等）」「園路の形状」「景観（ビュースポットの設定）」等が説明されました。

### 2. フィールドワーク

フィールドワークでは、望みの丘を中心に歩きました。園路や広場をつくる際に考えるべきことを下村先生より教えていただきながら、各自が気づいたことを地図にメモしていきました。広場からの眺望や坂の傾斜など、様々な気づきがあったようです。帰り道、竹の丘エリアに小さなスペースを見つけ、「イベントで活用できそう」とアイデアがいくつか出ました。



### 3. 土地条件図をつくろう！

お昼休憩の後は、2つのグループに分かれ、「土地条件図」を作成しました。午前中のフィールドワークで気づいたことを付箋に書き出し、A0サイズの望みの丘の図面に貼りながら整理していくというワークです。良いと思ったことは赤い付箋に、改善したほうがよいと思ったことは青い付箋に記しました。「階段を作ったほうがいい」「竹林が眺望を悪くしている」など、改善すべきところが多くあったようです。ワークの後は、グループごとに結果を発表しました。

### 4. コラボレーション区域の基本方針を考えよう！

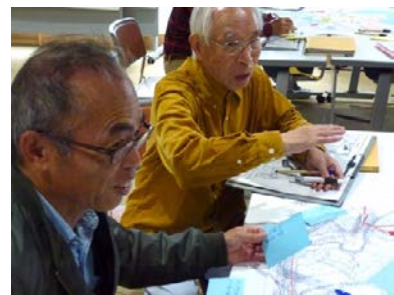
次に、コラボレーション区域の基本方針を考えました。はじめに下村先生より、図の描き方など図面への整理方法について説明がありました。そしてグループごとで、土地条件図の作成時に洗い出した各地の課題に対し、魅力を向上させるための方策を検討しました。「子どもが観察を楽しめる場所」などエリアごとにテーマを定めた上で、眺望をより良くするための方策や歩きやすくなるための方策、あるいは新しい楽しみ方などを図面に書き込んでいきます。こちらもグループ毎に発表しました。下村先生からは、「テーマを踏まえながら、各ポイントの楽しみ方が関連しあうよう設計するとよい」というアドバイスをいただきました。

### 5. 閉会

最後はホームルームです。事務局からパーククラブの入会案内、次回の講座について説明が行われ、この日の講座は終了しました。

#### 《主な感想》

- ・五右衛門風呂の活用法を考えていきたい。イベントの時など五右衛門風呂を再現することで、昔ながらのお風呂体験を子供たちに伝えられるのではないかと。(その際は火の使用許可が必要になる)
- ・望みの丘からの景観について、「てっぺんからの眺望だけでなく、下からの見え方も重要」などととても勉強になった。フィールドワーク後に、図面を書くことで、公園整備のことがよく理解できた。
- ・公園の様々な利用方法について話し合うことができて良かった。一つの利用方法を考えるだけでなく、「親子で楽しむゾーン」、「歴史を学ぶことができるゾーン」など、様々なエリアの活用方法があることがわかった。





## 第 6 回パークレンジャー養成講座

### 「パーククラブ活動を学ぼう！」

講師：パーククラブ代表 松井 弘



パークレンジャー養成講座の最終回を行いました。11 名が参加し、無事に修了式を向かえました。

#### 1. さあ、一緒に活動しよう！

いよいよパークレンジャー養成講座も最終回を迎えました。午前中は、パーククラブの活動を体験するという内容です。パークセンターに集合して前回の講座の振り返りを行ったあと、パーククラブの拠点であるレンジャーハウスに移動しました。

レンジャーハウス前に集合後、全員が簡単な自己紹介を済ませて、大家事務局長より活動内容を説明していただきました。この日の活動は、レンジャーハウス周辺やどんぐりの丘、クヌギの広場の落ち葉を集めて、ビオトープのすぐ横にあるビートルシップに補充するという内容です。ビートルシップはカブトムシが住みついて幼虫を育てる場所となるよう、舟型に柵囲いをして、落ち葉をたっぷり敷いているものです。

秋も過ぎ、園内には大量の落ち葉があります。ごみ袋に満杯になった落ち葉をビートルシップに運ぶだけでも結構な運動になり、皆さんの額にはじんわりと汗がにじみ出ていました。



## 2. 講義:「さあ、パーククラブで活動しよう！」

午後は、パーククラブの松井代表と大家事務局長による講義でした。松井代表からは、パーククラブの方針や組織体制、活動内容、ルールなどについて解説していただきました。特に大切にしていきたい点として、安全を第一に活動していただきたいことなどを話してくださいました。

そして大家事務局長からは、パーククラブの会則と、パーククラブと大阪府が締結している覚書について解説していただきました。また今年発刊されたパーククラブ5年史を受講生に配布し、特に5年間の軌跡について解説していただきました。

最後に studio-L より、パーククラブ専用ページの操作方法について説明がありました。パーククラブは現在、園路や竹林、水田など、育成テーマごとにチームを作って活動しています。まずは興味のあるチームをいくつか選んで、活動に参加していただきたいです。



## 3. 修了式

講座閉会後に修了式を行いました。大阪府の服部課長と大輪会の大西事務局長からの式辞の後、無事に全6回を受講して修了された方々に、修了証が手渡されました。また大西事務局長より、パーククラブのユニフォームであるイベントブルゾンとポロシャツ、帽子が贈呈されました。

その後、運営審議会委員からの激励の言葉として、増田会長から修了生へ向けられたメッセージをご紹介します。最後に、松井代表からも激励のお言葉をいただきました。

これからは8期生のみなさんにも、先輩パークレンジャーとともに、楽しみながら活躍していただけることを期待しています。



### 《主な感想》

- ・午前中の活動は、落ち葉をかき集めてビートルシップに入れていただけとはいえ、なかなかの運動量でした。気温は低かったですが身体がとても温まりました。これからも身体を動かす活動を楽しみにしています。

- ・(短期講座修了生として既に活動に参加しているため) チームリーダーの方々から「うちのチームに入ってくださいよ！」とお声がけいただいていたいて、悩ましいですが、まずは色々なチームの活動に顔を出していきたいと思います。

- ・立派な修了証をいただき、身が引き締まる思いです。現役で仕事をしているので限定的ではありますが、できるだけ活動に参加していきたいと思います。

